

## 「さんべえほんフェスタ」

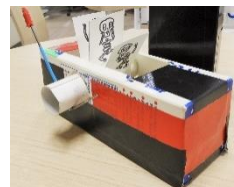
### 1 趣 旨

- ・物語をアニメーションや紙芝居など多角的な視点から楽しみ、工作活動を通して親子活動の促進を図る。
- ・紙芝居や読み聞かせのすばらしさを知り、自ら進んで読書活動に向かう子供を育てる。
- ・交流の家での生活を通して、家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年 11月16日(土)～11月17日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 講 師 やべ みつ のり 氏
- (4) 対 象 幼児～小学生(主に5歳～9歳)とその家族  
(図書館関係者や読み聞かせグループ等も参加可能。)
- (5) 参加者 44名(12家族 子ども25名 大人19名)
- (6) 日程・内容

	12:30	13:00	13:30	16:30	17:10	19:00	20:00	22:00	22:30		
11月16日 (土)	受付	はじまりの会	<b>「手づくりアニメあそび」ワークショップ</b> 手づくりアニメをみて、触って、作って楽しむ			夕食・入浴	タベのつどい	かみしばいをみて楽しむ やべみつりのり先生が、かみしばいを演じてくれるよ!	入浴・休憩	就寝準備	就寝
11月17日 (日)	起床	朝のつどい	朝食	身辺整理	退所点検	かみしばいを作って楽しむ 1日目の夜にみたかみしばいをお手本に、自分でかみしばいを演じてみよう!	おわりの会 サイン会	解散			



アニメ BOX (牛乳パックを使用。ハンドルを回すと絵が動く。)

### 3 事業の特色

#### ①プログラムデザインのポイント

講師のやべみつりのり氏と打合せを重ね、アニメーションや紙芝居の楽しさを親子で体感できるような活動内容とした。「『手づくりアニメあそび』ワークショップ」と「紙芝居の制作」の2本立てのプログラムとしたため、対象年齢の子どもとその保護者が余裕をもって活動できるよう、工作活動のゴールを達成しやすいように設定した。

#### ②運営のポイント

2日間を通して工作活動が中心となる。参加者の「作ってみたい。」という意欲を駆り立てるために、「『手づくりアニメあそび』ワークショップ」では導入の部分で、実際にアニメーションで遊ぶ時間を設けた。また、紙芝居の制作では、1日目の夜に紙芝居をみることで、2日目の紙芝居制作にスムーズに移行できるようにした。

各プログラム内容で工夫した点として、「『手づくりアニメあそび』ワークショップ」では、アニメ BOX の作成を基本とし、年齢に合わせて簡単な工作を選択できるようにした。「紙芝居の制

作」では、家族で協力しながら作品を1つ完成させ、活動の最後には希望者が紙芝居を演じることで、体験型の紙芝居の時間とした。

活動場所の机椅子の設置や飾り付けでは、親子で楽しく活動できる空間にするために、やべみつのり氏の作品を使った飾り付け、アニメーションや紙芝居の見本を研修室の壁や黒板一面に展示した。

### ③ 広報のポイント

幼稚園、保育所等の施設、小学校、図書館、観光施設等に広報活動を行い、事業の募集と合わせて周知も試みた。チラシ配布以外にも、利用者への案内やイベントの出店ブースにて告知を行い、直接事業の内容を説明できる機会を積極的に設けた。

## 4 参加者へのアンケート結果

### (1) アンケートの集計

(%)

### (2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	92	8	0	0
プログラム	92	8	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

- ・子ども達が前のめりになって紙芝居を見ていて良かったです。また、交流の家の生活の中で自分でやろうとする姿が少し見られました。
- ・講師の先生との距離が近く、親しみやすく良かったです。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- ・講師の想いをプログラムに反映させることや、全体の雰囲気づくりに工夫を凝らしたことから、参加者側と運営側の距離が近くなったため、参加者は積極的に講師やスタッフに作り方を質問することができ、意欲的に活動に取り組むことができた。
- ・紙芝居を「みる・作る・演じる」と様々な角度から楽しむことで、参加者は紙芝居に興味をもつきっかけを得ることができた。また、作る・演じる際には親子で協力して活動する場面が見られた。
- ・朝のつどい・夕べのつどいでは、ホワイトボードを使って集合時間や活動場所をわかりやすくアナウンスしたことで、子ども達自身も時間を守ることや次に行う活動を意識して生活することができた。

### 《課題》

- ・今回、募集定員には達せず、44名の参加であった。中にはリピーターの参加者がいるため、徐々に事業の定着はできているように感じる。広報先の行事・研修の開催時期を考慮した開催日の検討、幼児でも宿泊が可能であることの案内、地元図書館への協力の要請等を行い、より多くの方が事業に参加できるように見直しを行う必要がある。



(担当：事業推進係 狩谷 順子)